府立光陽支援学校
校長　藤野　洋子

令和３年度　学校経営計画及び学校評価

1　めざす学校像

【めざす学校像】児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践するとともに、地域社会に対しても「多様性社会の実現」を推進できる学校

＊その実現のために、**≪チーム光陽！つたえる･分かち合う･つながる≫**を合言葉に、以下の4点について連動させて取り組み、「好循環な学校」を作る。

1.**【基礎】** 安全安心な校内体制構築の実現。　～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全･安心に学べる学校～
2.**【実践】** 質の高い授業実践の実現。　～主体的な学びを大切にし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校～
3.**【組織】** 質の高い教員集団の実現。　～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～
4.**【発信】** 多様性社会の推進と実現。　～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、すべての人が自分らしく生きていく社会の実現に向けて使命が発揮できる学校～

2　中期的目標

●「学校経営推進費」を受けた年度（R3）【事業名】「光陽 GoGo プロジェクト～未来の扉を自分で開こう！～」

1.【基礎】 安全安心な校内体制構築の実現（安全安心力の向上） ～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全･安心に学べる学校～

（1）「学校生活のあらゆる場面で児童生徒･教職員の人権が尊重される学校」を実践･実現するため、「人権尊重の教育」を推進する。（取組み重点）
（2）すべての児童生徒の「心身の健康」を守り、すべての児童生徒･保護者･教職員にとって「安全安心な医療的ケア実施体制」を構築する。
・ すべての児童生徒の「心身の健康」を守るために組織として報告･連絡･相談･連携等の体制を維持する。新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を継続実施する。
・ 人工呼吸器の管理等、高度な医療的ケアも含めたすべての医療的ケアが、安全安心に行えるための環境整備を行い、校内体制を構築していく。
（3）学校における「危機管理体制」を強化し、事故･事案の未然防止に努める。また、万が一発生した時には、児童生徒･保護者･教職員へのリスクを最低限にとどめる。
・ 現在ある危機管理関係の手引きを集約･分析し、社会の変化に対応した形で「学校における危機管理の手引き」を再整理･再編成する。
・「大災害発生時」においても児童生徒･教職員の「命を守る」対応ができるように、「大災害対応防災マニュアル」を継続検討し、定期的に訓練を実施する。

2.【実践】 質の高い授業実践の実現（授業実践力の向上） ～主体的な学びを大切にし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～

（1）新学習指導要領を踏まえた学校全体の「教育課程」について、再編成を行う。
・「光陽グランドデザイン」の完成。（R3「めざす児童生徒像」「めざす教職員像」等の確定→R4「各学部教育目標」のつながり等の確定→R5「光陽グランドデザイン」確定）
・「学びの連続性」「キャリア教育」の視点を大切に、「教育課程」の再編成について、「教育課程検討委員会」等が中心となり、検討･作成を進める。
（2）主体的な学びを大切にした授業実践（観点別評価含む）を実現するため「研究授業」や「授業振り返り研修会」「教職員間の授業参観週間」を充実させる。
・ 定期的に学年･学部で話し合い、授業力向上及び授業改善のための大切な観点を共有し、新たな気づきや学びを「明日からの授業」に活用する。
・ 各教職員の「経験年数に応じた学び」や「教科等に応じた学び」を充実するために、学部を超えて相互に授業観察ができるシステムを構築する。
（3）自立活動における専門性の向上を図るための取組みを行う。（光陽 GoGo プロジェクトの取組み含む）
・ 外部人材等を積極的に活用し、初任者や経験年数の少ない教員への指導も含めた「自立活動の専門性の向上」のための取組みや検証を行う。
・ スパイダー･移動支援機器･スヌーズレンや GIGA スクール構想に伴う 1 人 1 台のタブレット等ICT機器等を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。
※上記（3）の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「自立活動を中心とした実践」における学校教育自己診断関連項目（新設）の肯定的回答率について、教職員･保護者共に、令和 3 年度 65％以上、令和 4 年度 70％以上、令和 5 年度 80％以上とする。

3.【組織】 質の高い教員集団の実現（組織力の向上） ～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～

（1）全教職員のスキルアップ研修と次世代育成継承システム（OJT）を充実し、学校組織として支援教育の専門性を高める。
・ 教職員の研修形態を「全校研修」と経験年数や課題別等の「ニーズ研修」の両輪で展開し、組織として全教職員の専門性向上を実現する。
・ 学年内での日常的な次世代育成継承システム（OJT）を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち、「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。
（2）組織としての「引継システム」を促進する。
・ 定期的な「整理整頓」の実行をおこない、校務のスリム化を促進する。
・ 授業･教材･業務等の各分野での「アーカイブ化」を「教育課程や年間計画」「発達課題」等と関連させて実行し、効率的な授業準備等に活用する。
（3）教職員が「教職員としての根幹の業務」に専念できるように「教職員の働き方改革」を推進する。
・ 教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導･支援するために、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。

4.【発信】 多様性社会の推進と実現（発信力の向上） ～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～

（1）「学校間交流」「居住地校交流」等について進化･深化させ、SDGsの視点も取り入れながら、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。
・「学校間交流」「居住地校交流」について、双方の学びを社会に発信することで、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。
（2）「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者･地域住民･地域小中学校･関係機関との協働を推進し、併せて「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
・ 地域住民や民生委員･校区福祉委員会の方々と連携し、「地域の教育力」を活用した授業を展開する中で、お互いが活性化できる取組みを工夫する。
・ 地域支援については、支援教育コーディネーターに加えて校内教職員の専門性を活用し、学校全体で「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
（3）児童生徒･教職員が光陽支援学校の取組み･実践･自らの学びを積極的に発信し、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。
・ 教職員は、自分たちの実践のまとめについて、「わかりやすく伝える力」（プレゼンテーションスキルや言葉の精選等）を強化し、校内外で発表の機会を作り、発信する。
・ ホームページ等の充実を図り、何度もアクセスしたくなる内容･更新ペースを検討し、学校の「見える化」を図る。
※上記（1）（2）（3）の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「SDGs拠点校としての実践･発信」における学校教育自己診断関連項目（新設）の肯定的回答率について、教職員･保護者共に、令和 3 年度 65％以上、令和 4 年度 70％以上、令和 5 年度 80％以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析･学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和 3 年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見
【実施期間】令和 3 年 12 月 6 日（月）～12 月 13 日（月） **【対象】保護者（提出率：肢体部門 76％･病弱部門 68％）･児童生徒･教職員（提出率：100％）** **（1）【基礎】安全安心力の向上** ・保護者への関連設問項目「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」「学校は、安全であり、子どもは安心して学校生活を送れている」「防犯･防災に備え、訓練や準備を行っている」等について、概ね 90％を超える肯定的評価があり、児童生徒及び保護者の安心安全のニーズに学校として応えられている結果であった。 ・また、「教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権に配慮した言葉や態度で接している」についての肯定的評価は、昨年度の 77％から 93％となり、16％上がった。昨年度生起した人権事案により、保護者の皆様にご不安･ご心配をおかけしたことを忘れず、信頼回復できるように継続して人権尊重の取り組みを進めていく。 ・教員への関連設問項目「ヒヤリハット･インシデント･アクシデント報告が共有され、再発防止に活かされている」「教員･養護教諭･看護師等が協働し、医療的ケア安全委員会で確認しながら安全に医療的ケアを行うことができている」については、90％を超える肯定的評価であった。	**【第 1 回学校運営協議会：令和 3 年 6 月 28 日（月）実施】** ≪委員より≫ ・「学校経営計画」について、4つの多様な側面から、まず、「児童生徒に用意する教育環境」が提示され、次に、それを実現するために必要な「先生方個人の専門性を高める方法」「組織としての専門性を高める方法」が提示されている。それを「どのように発信していくのか」について具体的に関連がまとめられており、光陽支援学校がめざす、あるいは、地域社会から求められている役割が盛り込まれた内容になっていて、非常によくできた「学校経営計画」である。 ・病弱部門の先生方は、入院治療中の児童生徒の教育を行うにあたり、日々、医者や看護師等の医療従事者の方々と情報交換を行い、時にはカンファレンスにも参加されている。入院中の児童生徒にとって大切な環境調整につながることで、これからも実行されるべき重要項目である。「カンファレンスへの参加」や「病院関係者との連携」は、病弱教育の大切な観点の一つとして、学校経営計画上に明示されてもよいかもしれない。 ・新型コロナウイルス感染症について、地域でも、感染状況がこのまま落ち着いていけば、10 月頃から高齢者への食事サービス等の事業を再開する計画を進めている。防災活動についても、現在ストップしている活動を 10 月頃から始めていきたいと思っている。

府立光陽支援学校

・また、「児童生徒に使用する言葉・行動と同僚間で使用する言葉・行動の質を高め、人権を尊重した教育活動を行っている」の設問では、肯定的評価が 90%で昨年度より5%上がった。

(2)【実践】授業実践力の向上

・保護者への関連設問項目「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと思って受けている」「学校は、生きる力・学ぶ意欲を育てる授業や他者と協力して取り組む授業を実践している」「学校は、ICT 機器等を積極的に活用し、教育活動を充実させている」について、概ね 72%～95%の肯定的評価であった。

・教員への関連設問項目「児童生徒の主体的な学びを大切にし、一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業を行っている」「学校行事が児童生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」「授業振り返り会や授業参観週間・交流会を実施し、他の教員と意見交換することで、授業改善・授業力向上に活かすことができている」について、83%～97%の肯定的評価であった。

・特に「主体的な学びを大切にした授業」「学校行事の工夫・改善」については、肯定的評価が昨年度より 11%～12%上がっており、コロナ禍において授業や行事を工夫し続けていることが反映された。

(3)【組織】組織力の向上

・保護者への関連設問項目「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。（連絡帳・クラス便り・懇談等）」「教職員は、子どもの障がいについてよく理解している」について、94%～99%の肯定的評価であった。また、「教職員間で子どものことについて情報共有等、十分な連携がとれている」については、肯定的評価が昨年度の 79%から 88%となり、9%上がった。

・教員への関連設問項目「全校研修会を適宜実施し、教職員の専門性向上に努めている」「校長の学校経営項目」について、概ね 88%～92%の肯定的評価であった。

・「仕事が効率的に実施でき、引継がスムーズに行えるように定期的な整理整頓」（肯定回答 71%→69%へ減少）、「働き方改革」（肯定回答 61%→71%へ改善）、「各学部・学年や各分掌内の連携・情報伝達」（肯定回答 66%→78%へ改善）、「個別の指導計画や個別の教育支援計画の共通理解と活用」（肯定回答 80%→85%へ改善）→引き続き課題解決に向けた取り組みが必要である。

(4)【発信】発信力の向上

・保護者への関連設問項目「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」「学校は関係機関と連携し、保護者の交流する機会を設けている」「ホームページ等で学校の取り組みを知ることができる」について、概ね 71%～89%の肯定的評価であった。しかしコロナ禍の影響で中止されたものもあり、昨年度の 90%以上の肯定回答と比較するとやや減少した。

・教員への関連設問項目は、「地域への相談支援体制とセンター的機能の発揮」「ホームページや配付物等での情報発信」について、概ね 78%～85%の肯定的評価であった。

(5)【学校経営推進費支援校】光陽 GoGo プロジェクト

・保護者への関連設問項目を新設。「自立活動での新規機器導入と 1 年目の実践」と「SDGs プレーヤー・SDGs 拠点校としての 1 年目の実践」について、肯定的評価が、74%と 89%で、目標としていた肯定的評価 65%以上を達成できた。

・教員への関連設問項目も新設。「自立活動での新規機器導入と教職員研修を含めた 1 年目の実践」と「SDGs プレーヤーとして企業と《届けよう服のチカラプロジェクト》で協働し、授業実践」について、肯定的評価が、90%と 94%で、目標としていた肯定的評価 65%以上を達成できた。

・病弱部門の保護者・教員の数値は、短期間の入院の児童生徒も含まれるため、個別に工夫改善の対応を行う。

＊児童生徒の結果については、どの項目も概ね良好な結果が得られた。個別に対応が必要と思われる項目結果については、対応済。

＊その他、「学校の施設設備面」の設問項目では、保護者・教員共に「トイレの環境改善・改修工事」についての必要性が、記述回答で多くみられた。

＊今後、以上の「学校教育自己診断アンケート」の結果を踏まえて、全教職員で分析・検討を行い、次年度の学校経営計画へ活かしていく。

【分析・検討状況】（3 月職員会議でまとめ）

1. 教員結果で、肯定的な回答の数値を引き上げたい項目について、以下の 3 点を重点に分析・検討する。
（分掌部会・学部会・グループ会議等で課題改善に向けて意見を出し合う。）

(1)「安心安全な学校」の根幹となる項目→「人権尊重」の項目

【項目 2】「児童生徒に使用する言葉・行動と同僚間で使用する言葉・行動の質を高め、人権を尊重した教育活動を行っている」

(2)「組織力の向上」の要となる項目→「仕事の効率化・引継」「働き方改革」の項目

【項目 16】「仕事を効率的に実施し、引継もスムーズに行うための整理整頓」

【項目 17】「仕事の時間を区切る・仕事のスリム化・仕事の仕方を変えるために工夫・改善に取り組んでいる」

(3)「発信力の向上」の根幹となる項目→「情報発信」の項目

【経営推進費支援校関連項目 2】「光陽 GoGo プロジェクトの取り組み発信」

2. 来年度に向けて

(1)「安心安全な学校」の根幹となる項目→「人権尊重」の項目

・「人権に関するチェックシートの実施」や、「学年会などを利用して人権に関する振り返り、学期ごとにまとめて、全校で事例などを共有」するなど定期的な人権意識を振り返る習慣つくり体制。
⇒文化部で具体案を検討・提示。

(2)「組織力の向上」の要となる項目→「仕事の効率化・引継」「働き方改革」の項目

・校務パソコンの共有ドライブ（S モード・I モード）のデータ整理。
⇒全体はICT教育部、個別フォルダは各分掌・各学部で整理整頓の実行。

・研修の精選、全体研修の選択制。
⇒研修を実施予定の各学部・各分掌で研修の実施方法（配信期間を設けた各自で視聴できる形など）、研修の精選、選択制などを検討し、フレックスに参加できる研修体制の検討・実施。

・ZOOMの有料利用。 ⇒有料利用開始。

(3)「発信力の向上」の根幹となる項目→【GOGOプロジェクトの取り組み発信】の項目

・プロジェクト内容「全体像の再発信」と「2 年目の取り組みの発信」
⇒「動画発信」等、よりわかりやすく、光陽の取り組みを発信できる体制をGOGOプロジェクトチームで検討・提示。

・小学校でも、昨年度は試行錯誤しながらの1年であった。プール学習については、光陽支援学校と同様で、昨年度は中止したが、今年度は感染症対策を行いながら実施している。宿泊行事も7月末に実施を予定している。子どもたちは、「マスクを外している時には、しゃべらない」ということが定着してきた。運動会も、対策を行いながら、秋に実施予定。光陽支援学校との交流も ICT を活用して工夫しながら実施していきたい。また、本日説明を聞いた「光陽 GOGO プロジェクト」の SDGs の取り組みも、ぜひ一緒に交流しながら進めていければと思う。

・PTA としても、「光陽 GOGO プロジェクト」に協力していきたい。保護者にも、プロジェクトで取り組む「自立活動のスゴ技コミュニケーション」でどんな機器があればいいか等の意見を聞いていただけるとありがたい。また、昨年度は PTA 活動での講演会や講習会が実施できなかったが、今年度は、秋頃から開催していきたい。募集時に人数制限等の課題について相談させて欲しい。

・学校経営推進費支援校に選出され、「光陽 GOGO プロジェクト」が 3 年間の取り組みとしてスタートしたこと、今回のプレゼンテーションを見て非常に楽しみであり、期待している。

【第 2 回学校運営協議会：令和 3 年 12 月 23 日（木）実施】

≪委員より≫

・動画では子どもたちの生き生きとした表情に感動した。支援される側が多い子供たちが、自分でできる機会を持つことで、積極的になれるのだと思う。どんどん発信してほしい。

・SDGsという現代ワードを用いて授業を企画されていて素晴らしいと思う。障がいがあるから無理と思われていたことが、ツールを使うことで、本来持っているけれど発揮できていなかった力を発揮できる喜びを子どもたちから感じた。

・この状況の中で、生き生きと学校生活を送られるよう工夫されていて感銘をうけた。
スヌーズレンについては実践を継続されるにあたって、しっかりと持続可能な目標設定を立て、継続的・系統的に進めてほしい。

・「自立と社会参加」のために、「自分の貢献度をいかに確認できるか」が大切だと思う。
情報発信をして、結果がかえってくる達成感を味わってほしい。

・光陽支援学校の子どもたちの素晴らしい活躍を見ながら、先日かかわったこの地域にあるホスピスの子どもたちのことを思い返した。他にも地域の相談を受ける中で、親子関係の難しさや、限られた狭い世界の中でつらい現実がたくさんある。進行性の筋萎縮症の 60 代の方が車いす1つ借りられない状況もある。地域でできることにも尽力したい。

・泊行事の代替行事の工夫に感銘を受けた。地域の小学校でも泊行事は、延期に次ぐ延期が重なり、先日 12 月 10 日にやっと実施できた。感染症は、今また新しい型が出てきつつあり、先行きが心配だが、光陽支援学校での取り組みを参考にさせていただき、自校も取り組みをすすめたい。対面交流もできていないが、今後もオンラインを活用してつながっていきたいと希望している。

・PTA 活動では、オンラインでの研修や取り組みが多かったが、逆に今まで以上に参加者が増えた。

・病弱部から報告があった「アバターロボットの実証実験」の研究メンバーの一人として補足したい。入院中の子どもたちがアバターロボットを通して、原籍校と途切れることなく、入院中もつながれる。メディアにも取り上げられており、社会発信が広がることで、さらなる取り組みが広がると期待したい。

・授業や代替行事の中で、様々な地域の資源を取り入れられており、たくさんの社会的資源の利用方法があるのだとわかった。

【第 3 回学校運営協議会：令和 4 年 2 月 28 日（月）実施】

≪委員より≫

・大阪市 24 区の社会福祉協議会ではオンラインを活用しての会議開催へ移行する方向が決定している。旭区もオンライン会議を実施するので、新森会館にも今後機器が導入されることになる。感染症の状況によって学校との地域連携としてオンライン会議も活用できるかと考えている。

・大災害時に光陽支援は、新森地区の避難所となっているが、鶴見区緑 1 丁目に隣接していることもあり、鶴見区からも避難を受け入れる状況が起こるかもしれないが、柔軟に対応をお願いしたい。

・一年間の取り組みを見せていただき、多彩な取り組みと子どもたちの生き生きと活動する様子を感じた。自校では 3 学期の行事がほぼできていない状況だった。このような中でも、光陽支援では、できる取り組みを見つけて実践を進められている挑戦の姿勢については、自校でも参考にさせてもらいたい。発信力がすばらしいと感じる。

・地域の方とのつながりや周囲の人の支援をすごく感じられた 1 年でした。10 年前、重度の子どもを受け入れられるデイサービスがなかったことを考えると子どもたちをとりまく環境はよくなってきている。SDGsの取り組みを通して地域に向けての発信が増えると、更に地域の理解や関わりが広がり深まっていくと思う。大災害時のことも気になっていたが、2 年前にマニュアルができ、地域との連携も進み、安心した。本当にありがたい。

・安心安全を第一にしながら、授業改善に取り組んでこられた結果が、アンケートに現れていると感じた。オンライン学習についてはコロナ禍で前進したよい変化で、今後、ハイブリッドの取り組みにも期待している。

・支援学校のミッションであるセンター的機能についても、ニーズや取り組みを含め、大阪府が、現在、再構築しているので、それに合わせて、検討していただきたい。

・「学校教育自己診断アンケート」の児童生徒用の各項目については、基本的には「はい」と答えることが望ましい状態だと思う。その中で、4番の「おとなになったときの仕事について、学習することがありますか」については、他の項目と異なるようにも感じた。キャリア教育の視点を含む質問だと思うが、病弱教育の対象となる子どもの中には、「病気は本当に治るのだろか？退院できるのだろうか？」という気持ちから、「今が大変なのに、そんな先のことまではなかなか考えられない」という気持ちを持っている子どもが少なからずいる。そのような子どもには、まずは今を楽しみ、「教室の中で病気や将来の不安のことを忘れられる時間を提供し、今の瞬間を充実させる中で、その結果として仕事や将来のことも考えられる可能性」という視点も重要なように思う。

・現在、どの学校でも教育の形に大きな変化が生じている。光陽支援の学校経営計画及び学校評価の全体を拝見して感じるのは、コロナ禍に左右されず、子どもたちの学びを保障したり、充実したりするために行われてきたこと、あるいは現在行われていることは、すべての学校の参考になるように感じる。様々な制限が多い中で、これだけの工夫や成果をあげられていることに感服した。

府立光陽支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［R2年度値］	自己評価
1 安全安心力の向上【安全安心な校内体制構築の実現】	(1) 人権尊重の教育推進	(1) ・ 教職員の人権研修として、「アサーティブコミュニケーション」等、健全な同僚性構築に必要な様々なコミュニケーションスキルを3年計画で学ぶ。 ・ 児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。 ・ 児童生徒の人権学習・道徳教育を計画的に授業実践し、各学部の取組み・好事例を共有する。	(1) ・ 全校研修 1 回で外部講師招聘。 ・ 毎月の学年会等を活用して、「ことば・行動」について振り返り、気づきを発信し共有する。 ・ 学校教育自己診断の関連項目保護者用の人権項目 80%超え。[77%]	(1) ⇒【○】 ・「人権尊重スキルとしてのファシリテーションを学ぼう」との内容で 8 月に「人権研修」を実施済。1 人 1 台の iPad で「ブレイクアウトルーム」を活用し、ワークを行いながら、人権尊重のための「ファシリテーションスキル」を学べた。全ての教職員が「自分事」として、「人権尊重のことば・行動」の振り返りを行い、課題解決に向けて実践できた。 ・ 自己診断関連項目　保護者 93%(プラス 16) ・ 人権学習や道徳も年間計画に沿って取り組めた。 (2) ⇒【◎】 ・ 感染症マニュアルについて、7 月に更新し、第 6 版運用中。 ・ 自己診断関連項目　教職員 78%(プラス 12) ・ ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告と分析活用及び今後の対応の共有化は、100%実施。 ・ 医師による巡回指導は、3 回実施済。全校研修会は、「医療的ケアが必要な児童生徒の災害への備え」について 12 月に実施済。 ・「緊急対応シミュレーション」年 3 回実施済。 (3) ⇒【○】 ・「光陽支援学校大災害時の対応マニュアル」を運用し、「大災害発生」を想定した模擬訓練(消防署と連携)を 9 月に実施できた。(一次避難場所から二次避難場所への移動訓練) ・ メール配信システム「光陽支援安心メール」での回答訓練を 6 月に実施済。(今回は感染症関係でのお迎え回答訓練) ・ 防災備蓄用品として「電動の簡易トイレ」と「衛生用品」を完備できた。 ・ PTA と協働で 9 月に「災害対策リモート講演会」を実施済。 ・ 危機管理関係のマニュアルや必要書類を整理して、タグを付け、本部立ち上げ時に活用できるようファイリング済。
	(2) 心身の健康を守る教育の推進	(2) ・ 感染症対策を定期的に見直し、感染拡大を防止する。 ・ 児童生徒のいつもと違う姿は、報告・連絡・相談の徹底。ヒヤリハット・インシデント等の報告と対応の迅速化。 ・ 安全安心な医療的ケア実施体制構築に向けて、医師と連携を行い、巡回指導・教職員研修を実施する。 ・ 高度な医療的ケアが増える中、定期的な緊急対応シミュレーションの実施。	(2) ・ 感染症マニュアルの適宜更新。 ・ 学校教育自己診断の関連項目(連携・情報伝達)で教員肯定的評価 70%超え。[66%] ・ 医師による巡回指導 3 回および全校研修を1回実施。 ・ 緊急対応シミュレーション年3回。	
	(3) 危機管理体制の強化	(3) ・「大災害時の対応マニュアル」の登下校バージョンについて運用を開始する。 ・ 大災害時を想定した教職員用訓練の実施。 ・ 地域関係者と連携し、避難所開設時の体制について、感染症対策も含めて、確認・調整を進める。 ・ 現在ある危機管理関係の手引きを集約・分析し、再整理し、活用しやすいようにファイリング・データ整理を行う。	(3) ・「大災害発生」を想定した模擬訓練(関係機関含)実施 1 回。 ・ 訓練後の気づきを「大災害対応マニュアル」に反映。 ・「光陽安心メール」にて大災害時の回答訓練を7月に実施。 ・ 危機管理関係のファイリング。	
2 授業実践力の向上【質の高い授業実践の実現】	(1) 教育課程の再編成	(1) ・ 各学年間・各学部間で系統的に積み上げていくことができる「教育課程」の再編成について、「教育課程検討委員会」等が中心となり、全教職員で「光陽支援のグランドデザイン」を作成。 ・「教育課程」に基づいた「年間計画(シラバス)」について、精査し、作成・共有を行う。	(1) ・「光陽支援のグランドデザイン」の「めざす児童生徒像」「めざす教員像」完成。(年度内) ・「年間計画」のデータベース化学びの連続性の視点で活用。	(1) ⇒【○】 ・「年間計画(シラバス)」を活用し「全体グループ交流会」を実施した。小学部から高等部まで同じ教科のシラバスを使用する授業担当者が集まり、お互いのシラバスを見ることで、指導内容の確認や段階的な学びについて意見交換を行うことができた。データベース化も済。 ・「光陽支援のグランドデザイン」については、めざす教員像のワークを行った。3 学期に職員会議で完成内容を共有済。 (2) ⇒【○】 ・「主体的な学びを大切にした授業づくり」という研究テーマに沿った「授業振り返り研修会」を各学部で 1 回実施済。また、「授業参観週間・交流会」は、2学期に実施済。 ・「光陽いいとこ集め」も部会で共有し、授業改善に役立てた。 ・「10年経験者研修及びアドバンスト研修に係る研究授業」を公開授業の形態で4回実施済。本校の指導教諭と合わせて、他校の参加者から感想や助言を得ることもできた。 ・ 8 月外部講師を招聘し「観点別評価」について「全校研修会」を実施。 ・【病弱】アバターロボット活用による実証実験に参加。原籍校とのつなぎ支援で工夫・試行しながら実践できた。 ・「全国ロボットプログラミング選手権」予選に出場。入院しながら挑戦できる場が増え、教育的効果は大きい。 (3) ⇒【◎】 ・ ICT機器の活用度は高く、1月全体研修で実践を共有した。 ・「光陽 GoGo プロジェクト」の実践として、「チームスヌーズレン」「チームベビーロコ」「チームスパイダー」の教員がけん引役となり、購入機器の設置や組み立て、活用が進み出した。 ・ 新規導入の「スヌーズレン」「ベビーロコ」については、外部講師を招聘し、全校研修も実施。 ・ 自己診断関連項目　保護者 74%・教職員 90%
	(2) 質の高い授業実践	(2) ・「授業振り返り研修会」「教職員の授業参観週間・交流会」を実施し、学びを「明日からの授業」に活用する。 ・ 授業「光陽いいとこ集め」を蓄積する。 ・ 10 年経験者研修等を活用した「公開研究授業」を実施し、ミドルリーダーとしての授業改善を進める。 ・ 質の高い授業作りのため、全校研修会で学び、授業改善につなげる。(観点別評価も含む) ・ VRやテレビ会議システム等、ICT 機器によるつなぎ支援、授業の在り方を更に研究し、原籍校等と協働する。	(2) ・「授業振り返り研修会」1 回と「授業参観週間等」1 回の実施。 ・「光陽いいとこ集め」のスリム共有 ・「公開研究授業」3 回以上実施 ・ 外部講師招聘による「全校研修会」1回実施。 ・ ICT 機器活用の実践をまとめ、その効果を原籍校等と共有する。	
	(3) 自立活動の充実	(3) ・ 1人1台端末の導入に向けて、ICT を効果的に活用した授業実践を累積し、学びを深化させる。 ・ スパイダーや移動支援機器・スヌーズレン・視線入力装置等を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。	(3) ・「ICT 実践報告会」「スパイダー報告会」各 1 回実施。実践の好事例を共有。 ・「光陽 GoGo プロジェクト」自立活動の実践で学校教育自己診断の関連項目教職員・保護者共肯定的評価 65%以上。	
3 組織力の向上【質の高い教職員集団の実現】	(1) 教職員の専門性向上	(1) ・ 教職員の専門性向上に必要な研修として、全校研修会以外に全国の支援学校や研究協議会が開催する「オンライン研修会」を積極的に活用する。 ・ 学年・学部内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実し、全教職員が、「内発的な問題解決発想」を持ち「なぜ」「何のために」のすり合わせを行っていく。 ・ 自立活動の専門性向上のため、福祉医療関係人材活用事業の活用と合わせて、専門性の高い教員による巡回指導を実施。相談しやすい体制を作る。	(1) ・「オンライン研修」が受講しやすい環境調整。メールでの情報提供とノー会議デイ等の有効活用。 ・ 学年内でのOJTを基本として、10 年研修・アドバンスト研修等も活用し、学びの内容を教育センターレポート提出時に検証。 ・ 自立活動における巡回指導の活用事例を共有。	(1) ⇒【○】 ・ 研究部がけん引役となり、近肢研・全肢研等の「オンライン研修会」について、「パブリックビューイング」を企画し、様々な分科会に参加できた。(ノー会議デイの有効活用含む。) ・ 10年研修・アドバンスト研修・インターミディエイト研修・初任者研修で作成する実践レポートについて、首席・指導教諭・管理職で回覧・共有。研究授業で学びの成果も共有。 ・ 福祉医療関係人材活用事業に加えて、自立活動の専門性が高い教員1名が週12時間の授業巡回を実施し、相談できる体制が継続できた。活用事例も共有済。 (2) ⇒【○】 ・ 産業医による学期に 1 回の校内巡視を実施。「5S＋S」の視点で各学部・分掌が積極的に気になる教室等の整理整頓を工夫・協力して進めている。 ・ 各分掌・各学部が実行した内容(理科準備室・本館職員室 ICT スペース・スパイダールーム改善、スヌーズレン室設置、分掌データ整理等)を共有し、更なる「5S＋S」を推進中。 (3) ⇒【○】 ・ 毎日 19 時施錠を継続し、時間外勤務の長時間化を防止。 ・ 自己診断関連項目　教職員 69%で目標の 75%には達していないが、類似項目の仕事のスリム化項目でプラス 10%の改善ができた。 ・ 専門機関と協働して、腰痛予防講座を1回、腰痛検診を 2 回実施。毎日の始業体操も継続実施。筋力や柔軟性等、個別の測定に基づき、予防の観点を共有し、報告書を作成した。 ・ 腰痛予防対策及び安全な移乗に活用するため、「リフトデモ機」を企業から 3 台借りて、検証。次年度の本格実施につなげた。
	(2) 引継システムの推進	(2) ・ 定期的な「整理整頓」を行い、校務のスリム化を促進する。5S(整理・整頓・清掃・清潔・躾)＋S(支援)の実行。 ・ 各学部・分掌・委員会等で電子データの整理を推進し、効率的な授業準備や引継等に有効活用する。	(2) ・ 産業医による校内の「5S＋S」の状況評価。(年 3 回実施) ・ 各学部・分掌で工夫・実行した内容を職員会議等で共有。	
	(3) 教職員働き方改革推進	(3) ・ 教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために①「仕事の時間を区切る」②「仕事のスリム化を行う」③「仕事の仕方を変える」の3点で整理をしながら、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。(毎日 19 時施錠継続) ・ 教職員の腰痛予防について専門機関と連携し、研修・相談体制を継続する。(始業体操の継続)	(3) ・ 整理整頓できる時間の確保。(安全衛生委員会に合わせて設定) ・ 仕事のスリム化で学校教育自己診断関連項目教員肯定的評価 75%超。[71%] ・ 腰痛予防対策の協働実践報告書を作成し、予防の観点を共有。	
4 発信力の向上【多様性社会の推進と実現】	(1) 交流および共同学習の充実	(1) ・「学校間交流」「居住地校交流」について、実践を充実。「出前授業」を行い、交流後の「相互の学びや気づき」を校内外に発信する。 ・「SDGsの視点や取組み」を交流の中でも活用する。 ・ 交流活動の一つに「スポーツ(ボッチャ等)」を活用する。	(1) ・「対面交流」「オンライン交流」を併用して、学びを深める。交流校とのアンケートで検証する。(肯定的評価 85%以上)[85%以上達成]	(1) ⇒【○】 ・「学校間交流」は、4 校18 回実施。(4 校で出前授業を実施)。内訳:小学部 2 校 8 回。中学部1校 4 回。高等部 1 校 6 回。 ・「居住地校交流」は、13 校 17 回実施。(11 校で出前授業を実施)。内訳:小学部 11 校 15 回。中学部 2 校 2 回。 ・ 交流は、対面及びオンラインで実施。対面では直接のかかわりがより互いを理解する機会となった。オンラインでは感染状況に影響されず、交流の回数を積み重ねることができた。 ・ 交流校とのアンケート結果は、肯定的評価 85%達成。 (2) ⇒【◎】 ・「夏季公開講座」として 3 講座を地域小中学校へオンライン配信。72 校・160 名の申し込みがあり、アンケートでも高評価を得た。 ・「全国ボッチャ選抜甲子園」予選出場。「こうやん Cup」を企画。 ・ 病弱部では、「沖縄美ら海水族館探検ツアー」「ゆめいろシューズプロジェクト」「ダイハツ出前授業」等、オンライン授業で地域資源を積極的に活用できた。(取り組みが新聞に掲載) ・「光陽 GoGo プロジェクト」の実践として、「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」に参加。PTA や交流校とも協働し、1287 枚の服を海外へ送ることができた。 ・ 自己診断関連項目　保護者 89%・教職員 94% (3) ⇒【○】 ・ 地域支援整備事業「広域ブロック」幹事校として、会議運営。 ・「光陽安心メール」で「光陽 GoGo 通信」を現在第 7 号まで発信。その他、「ボッチャ通信」も発信。合計年間 10 回。 ・ ホームページの更新は、行事毎に各教職員が責任を持って実行できた。
	(2) 地域に開かれた学校作り	(2) ・「授業実践・教職員研修」について積極的に地域へ公開(オンライン研修等)すると共に、コーディネーターによる地域支援も含めたセンター的機能を発揮する。 ・ 地域の学校や地域の方と共にボッチャに取組み、パラリンピック競技の普及に努め、「ともに学びともに育つ」教育の推進を行う。 ・ 地域の方々とつながる工夫を行い、「SDGsの視点や取組み」を発信する中で、自分たちの使命を発揮する。	(2) ・ 地域支援実施後のアンケートで 満足度を検証。 ・ ボッチャ推進委員会を中心に地域や他校と活動状況を共有する。(オンライン含む)大会や他校交流試合等 3 回以上参加。 ・「光陽 GoGo プロジェクト」SDGsの取組みで学校教育自己診断の関連項目教職員・保護者共肯定的評価 65%以上。	
	(3) 実践の積極的発信	(3) ・ 教職員は、自分たちの実践のまとめについて、「わかりやすく伝える力」(プレゼンテーションスキルや言葉の精選等)を強化し、校内外で発表の機会を作り、発信する。 ・ ホームページ等の充実を図り、保護者や地域の方々・関係機関への「学校の見える化」を図る。 ・ 保護者へは、「光陽安心メール」も有効活用する。	(3) ・ R3地域支援整備事業「広域ブロック」幹事校としての企画・運営。 ・ 研究会等校内外で実践発信。(出版物・冊子等含む) ・ ホームページの行事毎の定期的な更新。 ・「光陽安心メール」での実践等発信年 3 回。	